

The background of the cover is a dark grey or black color, overlaid with a complex, dense grid of thin red lines. These lines form a series of overlapping, slightly offset rectangular patterns that create a 3D, tunnel-like effect. The lines converge towards the center, framing the text. The Oracle logo is prominently displayed in the center.

ORACLE®

株主通信 vol. 18

第 24 期 中間報告書

2008 年 6 月 1 日から  
2008 年 11 月 30 日まで

証券コード\* 4716

# 株主の皆様へ To Our Shareholders



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社の2009年5月期中間期（2008年6月1日から2008年11月30日まで）のご報告をさせていただきます。

\*

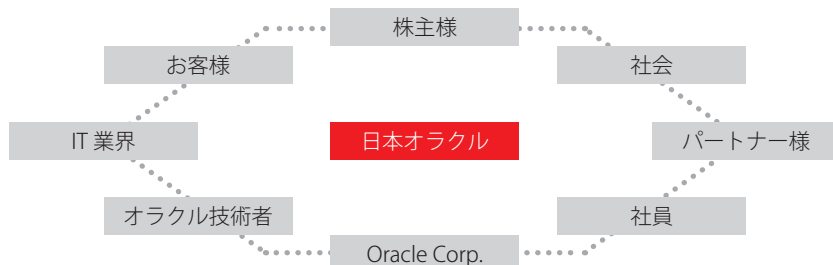
当中間期の日本経済は、米国の金融危機に端を発する景気の急減速により、国内外の需要が縮小し、企業収益の悪化が顕著となりました。情報サービス分野においても、IT投資の延期や見直しを行うお客様が増加するなど、大変厳しい環境となりました。このような厳しい市場環境の中、当社は基礎となるデータベース、様々な情報システムを連携させるフュージョン・ミドルウェア、そして企業活動に必要な様々な機能を提供するビジネス・アプリケーションまでを一貫して提供できるソフトウェアベンダーとして、お客様のビジネス上の課題を解決し、成長を支援する製品やサービスを提供してまいりました。

## 今後の戦略（概要）

### ミッション

「ITの新しい価値を創造しお客様の成功と社会の発展に貢献する」

各ステークホルダーの方に長期的に信頼される会社になる



### 基本方針

お客様志向の徹底

製品事業の強化

市場カバレッジの強化

この結果、当中間期は、売上高 57,988 百万円と 4 期連続の増収を達成いたしました。営業利益におきましても、本社ビル移転の関連費用等が発生したものの、17,672 百万円と前年同期実績を僅かながらも上回ることができました。なお、2009 年 5 月期の中間配当金につきましては、2008 年 7 月の前期末決算発表時に公表したとおり、1 株当たり 70 円とさせていただきますので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

#### 当中間期の業績 (%表示は対前年同期比増減率)

● 売上高	57,988 百万円	6.6%
● 営業利益	17,672 百万円	0.4%
● 経常利益	17,797 百万円	△ 0.4%
● 四半期純利益	10,367 百万円	△ 1.4%
● 1 株当たり四半期純利益	81.58 円	
● 1 株当たり中間配当額	70.0 円	

今後の見通しにつきましては、下半期以降も大変厳しい環境が続くと思われ、期初の業績予想を修正しております。2009 年 5 月期第 1 四半期業績の説明会時に発表いたしました、「今後の戦略\*」を確実に実行し、お客様が求める効果を迅速に実現できる製品やソリューションをパートナー企業の皆様と協力して積極的に提案し、また、原価や販売管理費の抑制努力を継続し、成長領域のビジネス拡大による収益力の向上を目指してまいります。全社一丸となって本戦略に取り組んでまいりますので、今後とも株主の皆様からのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2009 年 2 月

代表執行役社長 最高経営責任者 (CEO)

**遠藤 隆雄**

\* 詳細につきましては、2009 年 5 月期 第 1 四半期業績発表時の決算説明会資料をご覧ください。

URL : <http://www.oracle.co.jp/corp/IR/gyoseki.html>

## 施策

ソフトウェア  
プロダクトの  
売上成長を目指す

### ●事業体制の強化

製品事業の強化

営業カバレッジの強化

パートナーとの協業強化

### ●基盤事業の強化

データベース関連ビジネスの活性化

### ●成長事業の強化 / 立ち上げ

製品 / ソリューション	ERP, CRM & Industry Apps.
	EPM (Hyperion)
	FMW (Fusion Middleware)
	SOA
市場	SMB 市場

### ●新規事業モデルの推進

SaaS (CRM OnDemand)

## 当中間期の経営成績

2009年5月期中間期（2008年6月1日から2008年11月30日まで）におけるわが国経済は、米国の金融危機に端を発する景気の急減速により、国内外の需要が急激に縮小し、企業収益の悪化が顕著となりました。このような環境において、企業は設備投資の抑制を進めており、情報サービス分野においても、IT投資の延期や見直しを行うお客様が増加するなど厳しい環境となりました。

このような状況の中、当社は基礎となるデータベース、様々な情報システムを連携させるフュージョン・ミドルウェア、そして企業活動に必要な様々な機能を提供するビジネス・アプリケーションまでを一貫して提供できるソフトウェアベンダーとして、お客様のビジネス上の課題を解決し、成長を支援する製品やサービスを提供してまいりました。

2008年10月には、販売パートナーとの連携の強化、成長領域の市場開拓、お客様視点に立った営業体制の確立、製品事業の強化を目的として、全社的な組織変更を伴う改革に着手し、抜本的な営業体制の見直しと人的リソースの再配置を進めてまいりました。また、2008年9月には新本

## 当中間期の部門別売上高（金額は単位未満を切り捨て）

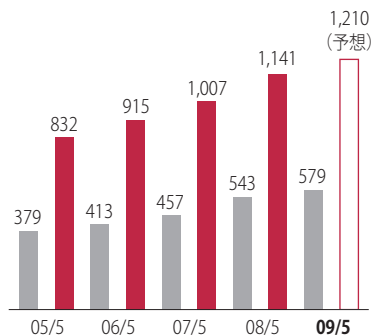
区分	金額
データベース&ミドルウェア	17,037 百万円
ビジネス・アプリケーション	3,180 百万円
ソフトウェアプロダクト小計	20,217 百万円
アップデート&プロダクト・サポート	28,785 百万円
ソフトウェア関連計	49,003 百万円
アドバンスト・サポート	1,352 百万円
エデュケーションサービス	1,389 百万円
コンサルティングサービス	6,244 百万円
サービス計	8,985 百万円
<b>合計</b>	<b>57,988 百万円</b>

社ビル「オラクル青山センター」に事業拠点の集約を完了し、経営効率の向上に注力するとともにコスト削減にも取り組んでまいりました。

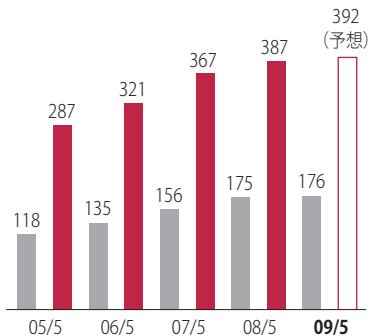
## 決算ハイライト

■●中間期 ■●通期

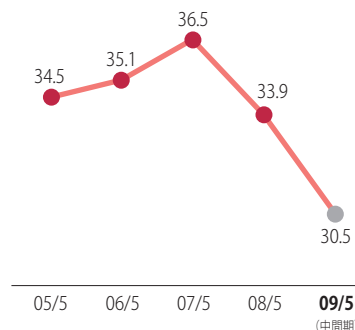
### 売上高（億円）



### 営業利益（億円）



### 営業利益率（%）



構成比	対前年同期比
29.4%	△ 11.0%
5.5%	14.8%
34.9%	△ 7.7%
49.6%	15.7%
84.5%	4.8%
2.3%	47.8%
2.4%	12.1%
10.8%	14.4%
15.5%	18.1%
100.0%	6.6%

これらの結果、売上高 57,988 百万円（前年同期比 3,602 百万円、6.6%増）、営業利益 17,672 百万円（前年同期比 74 百万円、0.4%増）、経常利益 17,797 百万円（前年同期比 68 百万円、0.4%減）、四半期純利益 10,367 百万円（前年同期比 145 百万円、1.4%減）となりました。

## 通期の見通し

今後の見通しにつきましては、景気が急激に減速する中で、企業収益の減少により、設備投資の抑制はさらに厳しいものとなることが予想されます。このような状況の下、当社においては、ソフトウェアの利用や導入支援を行うアップデート&プロダクト・サポートやサービス部門は堅調に推移しております。

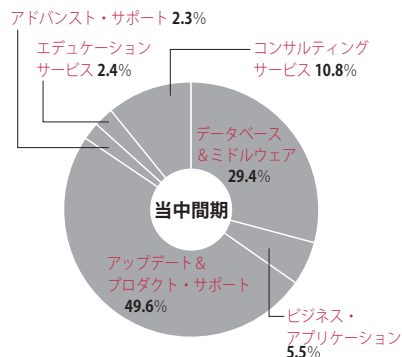
しかしながら、基盤となるデータベースの新規ライセンスの販売については売上の減少が見込まれるため、2008年12月24日に通期の業績予想を修正いたしました。

### 通期（2009年5月期）の業績予想（%表示は対前期比増減率）

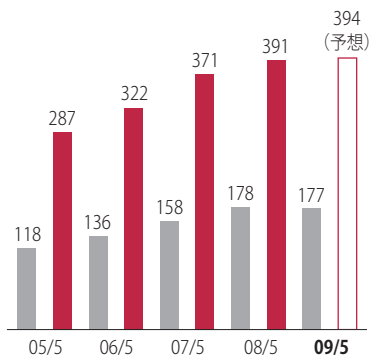
● 売上高	121,000 百万円	6.0%
● 営業利益	39,200 百万円	1.2%
● 経常利益	39,400 百万円	0.7%
● 当期純利益	23,100 百万円	0.2%
● 1株当たり当期純利益	181.76 円	
● 1株当たり配当額	173.0 円	

売上高は期初予想から 90 億円下方修正いたしますが、経費抑制努力の継続により営業利益は微減に修正、経常利益と当期純利益は期初予想から変更はございません。また、配当金につきましては、修正後の本業績を達成することを前提として据え置いております。

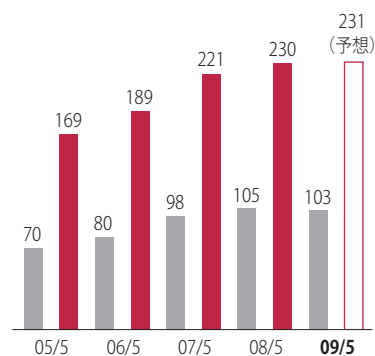
### セグメント別 売上高構成



### 経常利益（億円）



### 当期純利益（億円）



## 2008年の1年間で新しく加わった企業

<b>AdminServer</b>	▶ 保険契約管理ソフトウェアのプロバイダ
<b>Advanced Visual Technology (AVT)</b>	▶ 小売業向け 3D ビジュアル・マクロ・スペース・プランニング・ソフトウェア*のリーディング・プロバイダ *同技術は、小売店の最適な店舗設計や棚割りを支援するため、3次元画像により店舗スペースを事前検証するソフトウェア
<b>BEA Systems</b>	▶ エンタープライズ・インフラストラクチャ・ソフトウェアの世界的なリーダー ● 情報とサービスの安全な流れを加速する標準ベースのプラットフォームを提供 ● 企業側のITの複雑さを軽減し、サービス指向アーキテクチャ (SOA) を成功裏に導入して、ビジネスに俊敏に対応できるソリューションを実現
<b>Captovation</b>	▶ ビジネス・アプリケーションやプロセスから基幹コンテンツを簡単に読み込んで利用できるよう加工するドキュメントキャプチャ・ソリューション開発の大手企業
<b>ClearApp</b>	▶ コンポジット・アプリケーションを対象としたアプリケーション管理ソリューションのトップベンダー ● SOA プラットフォーム上で構築された複数のアプリケーションを管理するため、関連するすべてのアプリケーションを可視化するソリューションを提供
<b>Empirix</b>	▶ 音声と Web アプリケーションのテストと監視を行うソリューションのプロバイダ
<b>Global Knowledge Software (GKS)</b>	▶ セルフサービス型トレーニング自動化ソフトウェアのリーディング・プロバイダ (Global Knowledge, Inc. の事業部門)
<b>Haley</b>	▶ 社会福祉事業機関向けのエンド・ツー・エンドのソリューションを構築する企業
<b>Primavera</b>	▶ プロジェクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM) ソリューションのリーディング・プロバイダ
<b>Skywire Software</b>	▶ 保険業界向けソフトウェアとドキュメント管理アプリケーションを提供する業界のリーダー ● 保険契約の作成、レーティング、保険代理人・代理店の管理及び情報交換の各種ソリューションなど、保険契約のライフサイクル管理を中心に保険会社を支援
<b>Tacit Software</b>	▶ 自動プロファイリング技術を持つ企業 ● 社内で保持しているドキュメントや会話記録、メッセージなどのデータから、目的に合った人材を迅速に特定し、コラボレーションの展開を実現

親会社であるオラクル・コーポレーションは、2010年に「ナンバーワン・ビジネス・ソフトウェア・カンパニー」となることをコーポレートメッセージとして掲げ、この実現に向けて自らの技術革新を継続するとともに、競争力のある製品と顧客基盤を獲得するための買収戦略を継続しております。2008年に買収した企業数は11社にのぼります。特に、当社にとっては、2008年7月に日本 BEA システムズが新しく加わったことで、2009年5月期第1四半期業績の説明会時に発表いたしました「今後の戦略」を推進していく上で、ビジネス・アプリケーション分野とともに成長領域であるミドルウェア分野において、市場認知度の向上だけでなく競争力強化にもつながっています。今後、新たな価値創造と更なるシナジー効果が期待されます。

# TOP

## 主な Oracle Fusion Middleware 製品群

BEA システムズとの統合後の製品戦略として、統一性、モジュール構造、標準への準拠、オープンなどを基本原則に、完全に統合されたミドルウェア製品群を提供していきます。また双方の最良の製品を融合し、お客様に継続性と投資保護をもたらす戦略\*をとっております。「WebLogic Server」「Tuxedo」といった BEA システムズの製品は、「Oracle Fusion Middleware」の製品体系に組み込まれ、「Oracle WebLogic Server 製品群」「Oracle Tuxedo」などとなり、「Oracle Fusion Middleware」の守備範囲と基盤がさらに強化されることで、企業の成長を支え、変革を可能にしていきます。

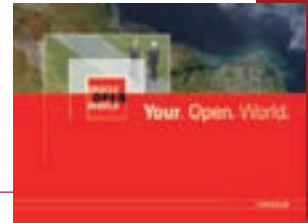
\* 詳細および製品の一覧については、  
<http://www.oracle.com/goto/july1> をご覧下さい。

## Oracle OpenWorld San Francisco のご報告と東京開催のお知らせ

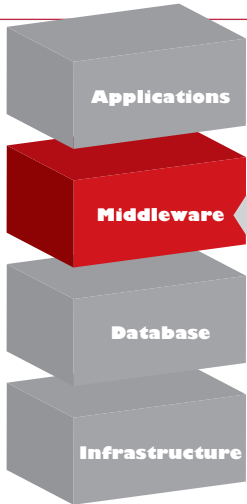
去る 2008 年 9 月 21 日 (日) ~ 2008 年 9 月 25 日 (木)、サンフランシスコモスコニーセンターにて 12 回目となる「**Oracle OpenWorld San Francisco**」が開催されました。単一のソフトウェア企業が行うイベントとしては世界最大規模で、世界 130 カ国、40,000 名以上の方が来場されました。オラクルの全てのプロダクトとテクノロジーを同時に体感することができ、期間中はテクニカルセッションをはじめ業界著名人、オラクルのトップマネジメントによる基調講演、各分野でのミーティング等様々なセッション、オラクル最新テクノロジーとパートナー企業による展示ホールやデモンストレーションなどが開催されました。

来る 2009 年 4 月 22 日 (水) ~ 2009 年 4 月 24 日 (金) の 3 日間、東京国際フォーラム (東京都千代田区丸の内三丁目 5 番 1 号) にて、「Your. Open. World. ここから結びつく。そして動き出す。」をメインテーマに、オラクルのテクノロジーや企業向けビジネス・ソフトウェアの最新情報を紹介する国際カンファレンス「**Oracle OpenWorld Tokyo**」を開催いたします。「**Oracle OpenWorld Tokyo**」に参加ご希望の方は、当社ホームページよりお申し込み下さい。

▶ URL : [oracle.co.jp/openworld](http://oracle.co.jp/openworld)



# ICS



**User Interaction**



**Enterprise Performance Management**



**Business Intelligence**



**Content Management**



**SOA & Process Management**



**Application Server**



**Grid Infrastructure**



**Enterprise Management**



**Identity Management**

## 四半期貸借対照表

(百万円 / 百万円未満切り捨て)

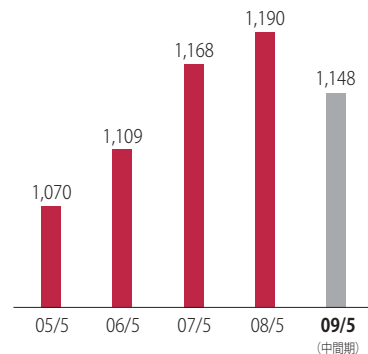
科目	前期末 (ご参考) (08/5)	当第 2 四半期末 (08/11)
<b>資産の部</b>		
流動資産	97,336	65,324
固定資産	21,706	49,534
有形固定資産	17,951	44,880
無形固定資産	7	51
投資その他の資産	3,747	4,602
資産合計	119,042	114,859
<b>負債の部</b>		
流動負債	35,888	34,259
固定負債	—	91
負債合計	35,888	34,350
<b>純資産の部</b>		
株主資本	82,880	80,171
資本金	22,282	22,290
資本剰余金	33,720	33,728
利益剰余金	26,892	24,170
自己株式	△ 14	△ 17
評価・換算差額等	34	△ 14
新株予約権	238	351
純資産合計	83,153	80,508
負債・純資産合計	119,042	114,859

### 財務諸表作成にあたって

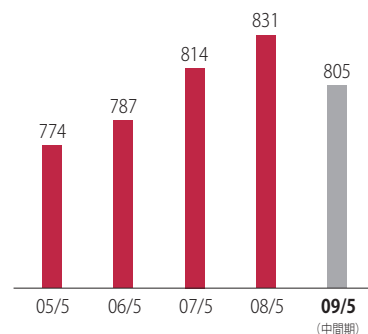
当事業年度より、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い、四半期財務諸表を作成しております。

● 中間期 ● 通期

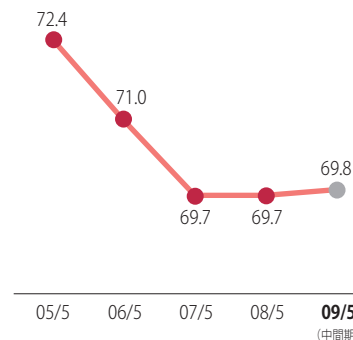
### 総資産 (億円)



### 純資産 (億円)



### 自己資本比率 (%)





## 四半期損益計算書

(百万円 / 百万円未満切り捨て)

科目	前中間期 (ご参考) (07/6 ~ 07/11)	当第2四半期 (累計) (08/6 ~ 08/11)
売上高	54,386	57,988
営業利益	17,597	17,672
経常利益	17,866	17,797
特別利益	—	194
特別損失	—	361
税引前四半期 (中間) 純利益	17,866	17,629
四半期 (中間) 純利益	10,512	10,367

### 営業利益

ソフトウェアプロダクト部門の売上が減少した一方、人件費を中心とした原価率の高いサービス部門の売上が増加したことや買収製品等の売上増加に伴い、ロイヤルティ金額が増加したことにより、売上原価率が上昇いたしました。また、買収製品等を取り扱う、日本オラクルインフォメーションシステムズ株式会社からの出向受入者の増加による人件費や2008年7月末に竣工いたしました本社ビルの減価償却費の増加を主因として、営業利益率は30.5%に低下いたしました。売上増により営業利益額は増加いたしました。

## 四半期キャッシュ・フロー計算書

(百万円 / 百万円未満切り捨て)

科目	前中間期 (ご参考) (07/6 ~ 07/11)	当第2四半期 (累計) (08/6 ~ 08/11)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,777	12,844
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,511	6,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,677	△ 13,077
現金及び現金同等物の増加額	1,611	6,184
現金及び現金同等物の期首残高	16,401	31,942
現金及び現金同等物の 四半期末 (中間期末) 残高	18,012	38,127

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、12,844百万円となりました。これは、税引前四半期純利益 (17,629百万円) の計上、売上債権の減少 (2,661百万円) などによるキャッシュ・インの一方で、法人税等の支払 (8,123百万円) を行った結果によるものです。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、6,417百万円となりました。これは、有価証券の運用を金融市場の急速な変化に対応するため償還金の一部を再投資せず手元現金としたこと、また一部を本社建物、土地等の固定資産の取得 (27,746百万円) に充当した結果によるものです。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、13,077百万円となりました。これは主に配当金の支払によるものです。

## 会社概要

商号	日本オラクル株式会社
所在地	東京都港区北青山二丁目5番8号 オラクル青山センター
設立	1985年10月15日
資本金	222億90百万円
従業員数	2,251名
事業内容	ソフトウェアプロダクトの販売及び 当該ソフトウェアプロダクトの利用を支援する 各種サービスの提供
事業所	本社：〒107-0061 東京都港区北青山二丁目5番8号 オラクル青山センター 支社：北海道支社 / 東北支社 / 中部支社 / 関西支社 / 九州支社 支店：北陸支店 / 中国・四国支店 / 沖縄支店

## 役員

代表執行役社長	遠藤 隆雄
取締役	東 裕二
取締役	野坂 茂
取締役	デレク・エイチ・ウイリアムズ
取締役	ジョン・エル・ホール
取締役	エリック・アール・ボール
取締役	グレゴリー・アール・デイヴィス
取締役	寺澤 正雄
取締役	中森 真紀子

(注) 取締役 東裕二は2008年12月31日付で辞任しました。

## IRサイトのご紹介

<http://www.oracle.co.jp/corp/IR/index.html>

当社のIRサイトでは決算短信、有価証券報告書等の財務情報、株主通信のバックナンバー、株式情報等を公開しております。ぜひご利用下さい。



## 社員犬の ウェンディ



日本オラクルの社員犬三代目のウェンディです。  
広告・イベント出演など、当社のPRに貢献しています。

♥名前	Wendy Wendy (ウェンディ・ウェンディ)
♥生年月日	2003年1月6日
♥性別	女の子
♥入社年月日	2003年4月1日
♥性格	大らかで活発、人なつこい
♥社員番号	0番

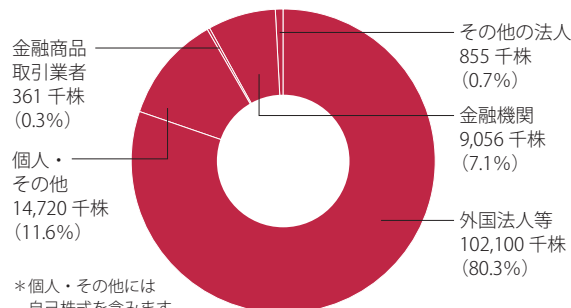
## 株式の状況

発行可能株式総数	511,584,909 株
発行済株式総数	127,091,571 株
株主数	44,771 名

## 発行済株式（自己株式を除く）の総数の 10分の1以上の株式を有する株主

株主名	オラクル・ジャパン・ホールディング・インク
持株数	94,967 千株

## 所有者別状況

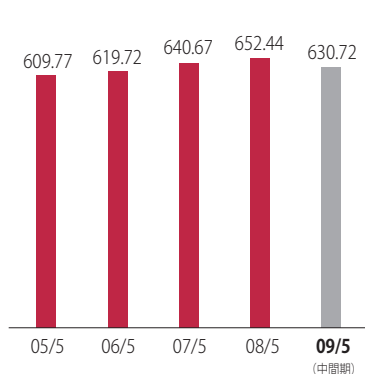


\*個人・その他には自己株式を含みます。  
\*単位未満を四捨五入して計算しています。

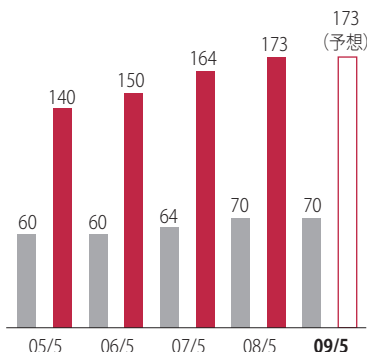
## 1株当たり情報

■ 中間期 ■ 通期

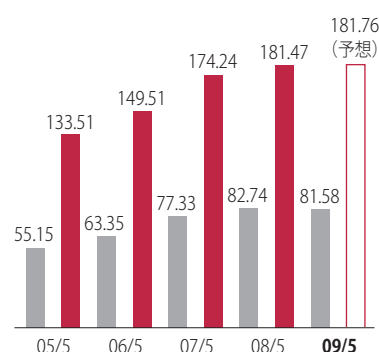
### 1株当たり純資産額 (円)



### 1株当たり配当額 (円)



### 1株当たり当期純利益 (円)



## 株式関係年間スケジュール

2009年 2月9日	中間配当金お支払い
3月下旬	第3四半期決算発表
5月31日	決算期
7月上旬	通期決算発表

2009年 8月下旬	定時株主総会及び 期末配当金お支払い
9月下旬	第1四半期決算発表
12月下旬	第2四半期決算発表

事業年度	6月1日から翌年5月31日まで	
定時株主総会	毎年8月下旬	
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	
特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先 (郵送先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	
基準日	定時株主総会	5月31日
	期末配当	5月31日
	中間配当	11月30日
	*その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日	
公告の方法	電子公告により、当社のホームページに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。	

## 株式に関する手続き等について

株券電子化の一斉移行により、株式事務のお取扱いが変更になりました。これに伴い、株式事務とのお問い合わせ窓口は次のようになりました。

### ●お手続き窓口及びお問合せ先：

- まだ受取っておられない配当金の受領に関するお手続き及びそのご照会
- 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会
- 株主様宛郵便物等の発送と返戻に関するご照会
- 特別口座に関する各お手続き及びそのご照会

- お手続き窓口  
三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口
- お問合せ先  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
【各種お問合せ】 0120-232-711  
【各種手続用紙のご請求】 0120-244-479  
【インターネットによるダウンロード】  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

- お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続きまたはお問合せをお願いします。

本株主通信に含まれている業績予想等、歴史的事実以外の記述については、資料の発表日において入手可能な情報から判断された一定の前提に基づき日本オラルク株式会社が策定したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 日本オラルク株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山二丁目5番8号オラルク青山センター  
インベスター・リレーションズ  
<http://www.oracle.co.jp/corp/IR/index.html>



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。